

V. 特記事項

Society5.0による人間中心社会実現のための教育の取組み

1. スマートデザイン学科設立

造形学部では、AIなど新しい情報技術をデザインやものづくりに活用する学びを広げるために、平成31(2019)年4月にスマートデザイン学科を新設した。学生が人間中心デザインの考え方にに基づき、実務家教員の指導によるAIの実践的な活用を学ぶカリキュラムはデジタルネイティブ世代の高校生を捉え、開設以来2年連続で入学定員を大きく上回る志願者を集めている。スマートデザイン学科の伊藤庸一郎教授が特許を有するXAI(explainable AI)であるAI生成プラットフォーム「Thinkeye」を使い、学生はpersona AIデザインに取り組んでいる。

令和2(2020)年度本年度からは新たにスマートフォンアプリ「Thinkeye VOID」が学科の学生全員に配付され、リモート環境下でも学修は滞ることなく進行している。

更に、これまで国公立大学のみで組織されていた「数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム」に令和2(2020)年6月よりスマートデザイン学科が参画することが決定し、AIを活用したデザイン教育を基に大学間の連携を図っていく。

現在、大手家電メーカー、有名美容サロン、岡崎市などの複数の産学官連携による共同研究や、一般財団法人国際災害対策支援機構との災害対策技術革新の共同研究が検討されており、スマートデザイン学科を拠点としたAI活用の輪は大きな拡がりを見せている。

2. 共通科目による学科を超えたスマートソサイエティ時代の産業を学ぶ

建築学科、スマートデザイン学科、総合経営学科の3学科は、1年次から共通科目をカリキュラムに設置し、同一のテーマを基にそれぞれが専門の視点から課題に取り組む、新しい時代の産業に対応する実践力の育成に取り組んでいる。スマートデザイン学科の中核をなすAIやIoTなどの情報技術のものづくり、デザイン、まちづくり、経営への活用は、日本の未来の産業全体の課題であり、来たるべきSociety5.0の必修科目であるともいえる。共通科目では「三河のまちづくりと観光」「三河のものづくり」といった地域に根差した学びを起点として、3年次では「未来産業ワーク」や「市場創成ワーク」など、各学科の専門知識をPBL型の授業で実践力に変換していく。

【エビデンス集(資料編)】

【資料 特-1】「数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムへのご参画について(連携校)」